

## 川崎市長賞

### ぼくと川崎のまつり

渡田小学校 6年生 中西 功樹

川崎にはたくさんのおまつりがあるとは思いませんか？ぼくは、おまつりは季節を感じさせてくれて、たくさんの人と、訪れる人の笑顔を集めてくれるように思います。ぼくの体験した川崎のおまつりのことを伝えようと思います。

春は、稲毛神社周辺で行われる「東海道川崎宿 2023 まつり」です。この少し長く感じるおまつりの名前を理解するには、「食べること、見ること、遊ぶこと、歩くこと」が必要です。何年も行われているこのおまつりは、今年を目指していたのでおまつりの名前に「2023」が入っていたのです。では、2023年は何の年なのでしょう。2023年は、川崎が東海道の宿場になってから四百年の記念の年で、おまつりの名前も今年は、「東海道川崎宿まつり」に変わっていて、みんなが待っていた年がやってきたのだと感じました。開会式では、「よいしょ！よいしょ！よいしょー！」と、わくわくすることが始まる予感のするかけ声とともに、川崎で作られたお酒の入ったたるが登場し、「鏡開き」が行われました。このおまつりでの楽しみは、川崎がはじまりとされている「三角おむすび」が食べられることです。コンテストでは、大人が考えたメニューもあれば、高校生が考えたメニューもあり、今年もおいしかったです。自分が選んだおむすびが一番になると、うれしい気持ちになります。また、ガイドの方が案内してくださるツアーに参加し、「六郷の渡しあと」では、今はすぐそこに見えている対岸へ渡るのに、多摩川がおだやかな日ばかりではなく、洪水のたびに橋をかけ直す苦勞をした昔の人のことを考えました。その後、会場に戻ってから、輪投げやけん玉等の昔遊びをさせてもらいました。

夏は、川崎大師「風りん市」です。全国の風りんが参道や、境内にかざられている様子が印象的ですが、ぼくは特に夕方から夜にかけて、お店が閉まった頃、人通りのあまりない参道でたくさんの風りんの音がひびいていた様子がとても好きでした。また、夏が近づくと、近所のどこかの家から、とても高い音の風りんの音がするので、その音がなるころに、風りん市と夏がもうすぐ来るのだなと感じます。

秋は、「かわさき市民祭り」です。富士見公園周辺で行われる市民祭りでは、祖父母は新せんな野菜を買っていました。また、川崎と友好的な、他の県のおいしいものが食べられます。特に、ぼくは富山県氷見市で採れた白魚の冷凍を、白いご飯にかけて食べるのが好きです。来年は川崎市ができてから百年になり、さらに楽しいことがあるのではないのでしょうか。

冬は、「初もうで」に行きます。「初もうで」は、おまつりの種類ではないですが、季節を感じることでできる行事です。毎年、五日ごろ、混雑をさげ家族で川崎大師に出かけます。その時には、足が悪くあまり外に出ないそう祖母とお参りに行き、帰りに、お年玉であめを買うのが定番です。フルーツのどあめが好きですが、

そう祖母に食べてほしくて、せき止めあめを一緒に買います。あめとくずもちを食べると、新しい年がきたことを感じます。

他にも川崎には、おまつりやイベントがたくさんあります。近くでやっていることもあり、家族で出かけることが多いですが、ここ数年、おまつりは、感染症の対策で色々な工夫がされていました。おまつり自体がなくなってしまうたり、形式が変わったものも多かったかもしれません。それでも、たくさんの楽しいことを体験することができました。

ぼくの妹は、「まつり」という名前です。両親が、おみこしを担いだり、おまつりがとても好きなので、妹が「たくさんの人とのつながりの中で育ててもらえるように」という思いを込めて「まつり」とつけたそうです。そういう意味でも、川崎の「まつり」はぼくにとって大切なものです。

ぼくは将来、川崎の魅力を伝えていけるようになりたいと思っています。そのために、川崎のことを勉強して、川崎で遊んで、川崎が次の百年後も、おまつりのたくさんある元気な町に育ってほしいと思っています。